

2015年3月9日

100-8959

東京都千代田区霞が関三丁目2番2号
文部科学省
文部科学大臣 下村博文 様

107-0061

東京都港区北青山2-8-35
独立行政法人日本スポーツ振興センター
理事長 河野一郎 様

102-8322

東京都千代田区北の丸公園3-1
東京国立近代美術館内
国際美術評論家連盟日本支部
会長 峯村敏明

要 望 書

1964年東京五輪のために国立競技場（東京都新宿区）に制作設置された13点のモザイク壁画は、当時の日本で絵画芸術の重要な担い手であった代表的な画家たち（大沢昌助、寺田竹雄、長谷川路可、宮本三郎、脇田和）が原画を手掛けた「五輪精神を表現する貴重な作品群」として評価されてきました。

芸術作品や関連する資料は可能な限り後世のために保存されるべきだとする一般論からして、また、新国立競技場が1964年の東京五輪の精神を発展的に継承するはずの施設であると考えられることからしても、上記の壁画はすべて新競技場に一括展示されることが望ましいことは言うまでもありません。

芸術の擁護と発展を願う美術評論家連盟としては、この問題が該当する芸術家たちの名誉という観点を越えて、社会と歴史に占める芸術全体の位置の重要性にかかわるものと考え、強い関心を抱いております。所管機構の賢明な配慮と善処を強く要望する次第です。

以上